

実施内容	狂言鑑賞教室 ～聞いて、観て、やってみる！～		体験領域	芸術文化
日付	令和5年12月18日（月）	場所	体育館	
実施校	文京区立誠之小学校			
概要	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統文化である狂言を鑑賞し、実際のお稽古を体験することで、伝統芸能への理解を深めるとともに、豊かな感性や自主性を育むことをねらいとした内容となっています。 狂言曲目の鑑賞では、迫力ある言葉や所作を通して、描かれる場面を児童が想像力を駆使して感じ取ることができるようにするとともに、児童の感性を育みつつ芸術を楽しむことができるようにしています。また、ワークショップでは「口伝」によるお稽古を体験し、鑑賞だけでは感じることでできない楽しさや技術の奥深さを実際にやってみることで味わうことができるようにしています。 			

狂言についての解説

- 狂言の歴史や舞台のつくり、擬音（鳴き声など）など、上演上の特徴について実演を交えた解説を聞きました。



- 「構え」や「すり足」、「擬音」の迫力ある狂言を実際にすぐ近くで見て、児童は圧倒されている様子でした。

狂言の鑑賞

- 能楽堂を模した仮設舞台上で、「盆山（ぼんさん）」、「痺（しびり）」の2曲が実演され、児童は真剣に鑑賞していました。



- 隠れていることに気付いている演者が、隠れている演者に対し「そこにいるのは犬なのか？」と問い掛け、隠れている演者が犬の鳴き声を発してごまかそうとした場面では、笑い声上がり、鑑賞を楽しんでいる様子でした。

ワークショップ「お稽古体験」

- 演者がお手本となり、「手を添えて座る」、「挨拶をする」、「犬の鳴き声をまねる」、「挨拶を抑揚を付けて発する」などのお稽古を体験しました。



- 挨拶を抑揚を付けて発するお稽古は、学級対抗形式で行われました。それぞれの学級から発せられる大きな声が、体育館に響き渡り、大いに盛り上がりました。



参加した児童の声・反応

- 初めて狂言を見ることができて、とても貴重な体験になりました。国語の授業で少し勉強しましたが、やはり実際に間近で見る狂言はとても面白く、迫力がありました。
- 狂言のすごいところが二つ分かりました。第一は、声がゆっくりしていて聞き取りやすいところ、第二は、声に抑揚があり面白おかしく聞こえるところです。日本に昔からある文化をこれからも守ってほしいです。